

学校名	呉市立昭和北小学校
担当教員名	

活動のテーマ	「自分の命は自分で守る」力の育成～自分の笑顔，家族の笑顔，地域の笑顔を守る～
主な教科領域等	教科領域（総合的な学習の時間，生活科，特別活動）
アプローチ	※該当するものに□をつけてください（複数可） <input type="checkbox"/> 地域連携 <input type="checkbox"/> 避難訓練・避難所運営 <input type="checkbox"/> 専門家の活用 <input type="checkbox"/> 体験学習 学校間・地域間交流 <input type="checkbox"/> 教科連携 <input type="checkbox"/> 地域発信 <input type="checkbox"/> カリキュラム開発
活動に参加した児童生徒数	（ 全学年 558人）（複数可）
活動に携わった教員数	（42）人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	（約400）人 【保護者・地域住民・その他（呉市消防局，呉市危機管理課）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に□をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	西暦 2024年 7月 1日 ～ 西暦 2024年 10月 31日
想定した災害	※該当するものに□をつけてください（複数可）。 <input type="checkbox"/> 地震 <input type="checkbox"/> 津波 <input type="checkbox"/> 台風 <input type="checkbox"/> 洪水 <input type="checkbox"/> 河川氾濫 <input type="checkbox"/> 土砂 その他（ ）

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

本校では、西日本豪雨災害時、河川の氾濫により、店舗に土砂が流れ込んだり、土砂崩れによる被害があったりした。その影響で道路が遮断されるなど、生活面でも大きな影響があった。しかし、災害から6年が過ぎた現在の子供たちは災害の記憶が薄れ、あるいはまったく覚えていない年齢になっており、災害の風化が懸念されている。防災に対する知識を身に付けることはもちろんであるが、実際にその身に付けた知識を活用し、自分で考えて行動することができる児童を育成することをめざした防災教育を進めていく。

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

「北小防災フェスティバル」

日時：令和6年10月31日（木） 5・6校時

場所：運動場・体育館（6年），家庭科室・ピロティ（5年），各教室（1～4年），煙中体験

発表内容：・1年→防災ダックの体験，掲示・2年→新聞紙スリッパの作り方レクチャー・3年→ポスターセッション
・4年→防災グッズの紹介・5年→炊き出し・6年→避難所，救助活動体験（簡易ベッド・テント設営など）
・ひまわり→防災学習で取り組んだことの展示・煙中体験→昭和分署の消防士による煙中体験

※縦割り班48班を3グループに分け，発表するグループと各発表ブースを見て回るグループに分かれ，交代で各学年の発表を見て回ったり，実際に体験したりする。地域公開及び参観日を兼ね，地域及び保護者にも参加してもらう。

3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

・助成金の活用

防災リュックや防災テントの購入により，児童が実際に実際に体験することが可能となった。また，炊き出しの材料を購入することができ，自分たちで作ったお米とあわせて，炊き出しを行うことができた。

・児童からの発案を生かして

北小防災フェスティバルに合わせて防災ソング及び防災キャラクターを設定したいとの声が児童から上がり，代表委員会で話し合いを行い，防災ソング及び防災キャラクターを作成した。出来上がったキャラクターの「サイガー」を缶バッジにして児童に配付し，ランドセルに付けるなどして，日頃の防災意識を高めた。

・被災された方の話を聞く

防災の学習を進める中で，懸念される災害の風化から，災害を「自分事」としてとらえ，「当事者意識」をもつことが必要であると考え，実際に被災された元教員の方に，5，6年生を対象にして，体験談を語っていただいた。

・学習の記録の蓄積

各学年で取り組んだ学習内容をそれぞれが整理し，電子データとして保存した。これにより，次年度以降の取組の際の参考にすることができるとともに，連携が可能な関係機関や人も記述しておくことで継続した取組にすることができる。

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

- ・他の教科等の関連等、カリキュラムマネジメントの視点に立ち、全ての教育活動が、「自分の命は自分で守る」防災教育に結びつくことを教職員が意識して児童に指導することができた。
- ・これまでは、各学年がそれぞれ防災教育に取り組み、学校全体で系統性等をあまり意識できていなかったが、今回の取組を通して、各学年の取組を理解し、次年度以降に向けて系統的な学習プログラムへと改善していく視点をもつことができた。

②児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身につけたか。

- ・防災の学習を進める中で、地域の様子や過去の災害について知ることができた学年だけでなく、各学年の発表から全校でそのことを共有することができた。また、発表することを通して、災害から身を守るために必要な知識・技能を身に付けることができた。
- ・それぞれの発達段階に応じた取組により、自ら問いを見い出し、その解決に向けて追究する力を高めることができた。また、実際に災害が起こったときに、適切な意志決定と行動する力を身に付けることができた。
- ・自分たちの取組だけでなく、他の学年の取組を知ることを通して、防災・減災に関する様々な課題に関心をもつとともに、地域の方々とのかかわりの中で、主体的に安心して安全な社会づくりに貢献しようとする思いを高めることができた。

③教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の視点から

- ・地域の昭和自主防災、女性会、社会福祉協議会、呉市危機管理課、呉市消防局西消防署昭和分署など多くの関係機関等と事前の学習段階から積極的に連携し、防災フェスティバル当日も、サポートしていただくことができた。地域のいろいろな組織と学校をつなぎ、地域と連携して防災フェスティバルを中心とした防災教育に取り組める体制を構築していくとともに、今回の取組を通して、積極的に地域に防災に関する取組を発信することができた。また、関係機関から学ぶことだけに留まらず、学んだことを児童が理解し、それを伝えることにより、より防災に係る学びが深まった。

5) 工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

- ・学年だけの防災の取組ではなく、全校で取り組んだことを全ての児童が見て学び、防災に対する関心を高めた点。
- ・縦割り班を使って、発表と見学の流れをつくり、地域や保護者の方を含めた相手に伝える意識を高めた点。
- ・地域の自主防災や女性会等、多くの方にサポートしていただき、地域への発信もすることができた点。
- ・防災ソングや防災キャラクター等、児童の発想から生まれた取組もあり、それらを実践することを通して、防災に対する意識を高めた点。
- ・参加してくださった昭和市民センター長から、「ぜひ、この取組を昭和地区全体に広げていきましょう」と、さらに地域との連携を深めることができた点。
- ・教職員全体で、防災・減災教育に対する意識を高めることができた点。

6) 実践から得られた教訓や課題と、次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

- ・多くの方々にサポートしていただき、今回の取組を実践した。初めての取組で、児童は学んだことを一生懸命伝えようがんばっていた。一方で、研修で学んだ災害を「自分事」として捉え、「当事者意識」をもつことについては、まだまだ十分ではないと感じている。このことについて、「北小防災フェスティバル」を定着させていく中で、今回の取組をベースとして、継続して児童に考えさせること、さらに地域を巻き込んだ実践になることが必要であると考え。そのためには、教職員が研修等を重ね、さらに防災について深く学ぶこと、そして「自分事」として捉え、「当事者意識」をもつことにより、実践力を高め、児童の笑顔、地域の笑顔を増やしていくことがこれから重要である。

7) その他(※特にあれば記述)

※写真や画像、補足資料などがある場合は添付してください。写真は別途元データ(JPEG)もご提供ください。

北小防災フェスティバル実施計画【改定版】

1 活動のテーマ

「自分の命は自分で守る」力の育成
～自分の笑顔，家族の笑顔，地域の笑顔を守る～

2 ねらいと育成すべき資質・能力

- 地域の様子や過去の災害について知り，災害から身を守るために必要な知識・技能を身に付けている。(生きて働く知識・技能)
- 自ら問いを見出し，その解決に向けて追究する力を高めるとともに，適切な意志決定と行動する力を育む。(未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力)
- 安全に関する様々な課題に関心をもち，主体的に安心で安全な社会づくりに貢献しようとしている。(学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養)

3 日時 令和6年10月31日(木) 5・6校時 (1・2年は生活でカウント)
(3年以上は，総合でカウント)

4 場所 運動場・体育館(6年)，家庭科室・ピロティ(5年)，各教室(1～4年)，煙中体験

5 服装 動きやすい服装・赤白帽・名札

6 参加者 昭和北小学校児童全員 557名
昭和自主防災
女性会
社会福祉協議会
保護者
呉市消防局西消防署昭和分署
危機管理課

7 発表内容 **※ 各5～6分くらいの内容**

- ・1年→防災ダックの体験，掲示
- ・2年→新聞紙スリッパの作り方のレクチャー
- ・3年→ポスターセッション
- ・4年→防災グッズの紹介
- ・5年→炊き出し
- ・6年→避難所・救助活動体験(簡易ベッド・テント設営，消火活動など)
- ・ひまわり→防災学習で取り組んだことの展示
- ・煙中体験→昭和分署の消防士による煙中体験(運動場にテントを設営して実施予定) ※準備は昭和分署

8 日程

- 11:30 給食開始 ※3校時授業
- 12:15 給食終了
- 12:20 帰りの準備・トイレ休憩
- 12:30 開会式 (各教室 放送)
・校長挨拶
・諸注意 (保健主事)
- 12:35 移動 (各学年の2組の児童は各学年のブースで発表等の準備)
1班～16班 (1組児童), 33班～48班 (3組児童) は運動場に縦割り班ごとに並ぶ。
6年リーダー (班の番号カード等) ※雨天の場合は体育館等
- 12:45 防災フェスティバル活動①
(30分で4ブースを回る。残りの4ブースは次の活動時間で。周り方は下記参照)
- 13:15 移動 (各学年の1組の児童は各学年のブースで発表等の準備)
17班～32班 (2組児童) は体育館に縦割り班ごとに並ぶ。
6年リーダー (班の番号カード等)
33班～48班 (3組児童) は次に回るブースの廊下等で並んで待機
- 13:25 防災フェスティバル活動②
(30分で4ブースを回る。残りの4ブースは次の活動時間で。周り方は下記参照)
- 13:55 移動 (各学年の3組の児童は各学年のブースで発表等の準備)
1班～16班 (1組児童) は体育館に縦割り班ごとに並ぶ。
6年リーダー (班の番号カード等)
17班～32班 (2組児童) は次に回るブースの廊下等で並んで待機
- 14:05 防災フェスティバル活動③
(30分で4ブースを回る。残りの4ブースは次の活動時間で。周り方は下記参照)
- 14:35 移動 (各教室へ)
- 14:40 閉会式 (各教室 放送)
・振り返り (保健主事)
・地域の方へのお礼の言葉 (児童代表6年 組)
- 14:45 終了
- 15:00 下校 (1～4年) バス:通常便
片付け (5・6年)
- 15:40 下校 (5・6年) バス:北コース15:52 (北小前)
熊野コース16:14 (北原) ※下校15:30→15:44

コーナー	① 1年発表	② 2年発表	③ 4年発表	④ ひまわり 発表	⑤ 3年発表	⑥ 5年(炊き 出し)	⑦ 6年発表	⑧ 煙中体験
場所	1-1 1-2 1-3	2-1 2-2 生活科室 (3組)	4-1 4-2 4-3	ひまわり 1	3-1 3-2 3-3	職員玄関 前ピロテ イ	体育館 運動場 6年生 危機管理 課 自主防災 西消防署	運動場
担当	1年生 社会福祉 協議会	2年生	4年生	※展示の み	3年生	5年生 女性会		西消防署
1回目 12:45~ 13:15	コーナー 担当 1-2 縦班 ス 1・2 33・34	コーナー 担当 2-1, 2-2 17~24班25 ~32班 縦班 ス 3・4 35・36	コーナー 担当 4-2 縦班 ス 5・6 37・38	コーナー 担当 なし 縦班 ス 7・8 39・40	コーナー 担当 3-2 縦班 ス 9・10 41・42	コーナー 担当 5-2 縦班 ス 11・12 43・44	コーナー 担当 6-2 縦班 ス 13・14 45・46	コーナー 担当 西消防署 縦班 ス 15・16 47・48
2回目 13:25 ~ 13:55	コーナー 担当 1-1 縦班 ス 17・18 41・42	コーナー 担当 2-1 1~16班 縦班 ス 19・20 43・44	コーナー 担当 4-1 縦班 ス 21・22 45・46	コーナー 担当 なし 縦班 ス 23・24 47・48	コーナー 担当 3-1 縦班 ス 25・26 33・34	コーナー 担当 5-1 縦班 ス 27・28 35・36	コーナー 担当 6-1 縦班 ス 29・30 37・38	コーナー 担当 西消防署 縦班 ス 31・32 39・40
3回目 14:05 ~ 14:35	コーナー 担当 1-3 縦班 ス 25・26 9・10	コーナー 担当 2-2 33~48班 縦班 ス 27・28 11・12	コーナー 担当 4-3 縦班 ス 29・30 13・14	コーナー 担当 なし 縦班 ス 31・32 15・16	コーナー 担当 3-3 縦班 ス 17・18 1・2	コーナー 担当 5-3 縦班 ス 19・20 3・4	コーナー 担当 6-3 縦班 ス 21・22 5・6	コーナー 担当 西消防署 縦班 ス 23・24 7・8

- 6年生をリーダーとして縦割り班ごとに防災ブースを回る。
- ブース担当(発表)は1回目が2組, 2回目が1組, 3回目が3組の順番で行う。
- 教職員(担任)は, 各学年担当のブースにつく。
※井早(保健室・体調不良児童の対応), 沖山(職員室・放送)
藤平(運動場補助), 神笠(体育館補助), 山根(炊き出し補助), 三根(2年生の補助)
羽根, 児玉, 吉田, 河本, 岩見(児童補助)
- 活動①②③のそれぞれ終了5分前に放送をかける。その5分後にチャイムがなったら終了し移動
※移動の際は, グループごとに並ばせる。(バラバラで行動させない。)
- トイレは随時ブースの近くを利用させる。(6年リーダーに伝えてから行く。6年リーダーは点呼)
- **運動場にはシューズのまま出るようにし, シューズのまま並んで移動させる。靴箱の雑巾を踏ませる。(保健安全部準備)**
- 始まりの際は「よろしくお願ひします」終わったら「ありがとうございました」のあいさつをする。

9 その他

- 雨天の場合も決行 外で行うものは代替案を。
- 前日準備の時間は特に設けない。教科等の時間で行う。
- 6年生は回る順番を事前に知らせておく。(回る順番のカード等用意→保健安全部)
- 特別教室を使用する場合は、授業で使用できないことを事前に周知しておく。
- 当日の立て看板の設置(専科の先生)
- 必要な場所のポール・コーンの設置(各学年・各ブース)
- 校舎の必要な掲示(矢印・会場図・ブース名の看板・防災ソング・キャラクター)の確認(保健安全部)
- 各教室・ブースに必要な掲示物(入口・出口・看板・写真撮影×)の確認
- 煙中体験…消防署の方との連携(保健主事)
延長コード準備
- 各ブースで記録用として写真を数枚撮っておく。

撮った写真は、デスクトップ→共有(写真)→R6 学校写真→03 分掌→保健安全→北小防災フェスティバル
→各ブースに保存する。

- 23日(水)防災フェスティバルに向けて職員会議を行う。各学年の発表内容と動きを大まかに説明してもらう。
- 各ブースのブース名を教室前に掲示する。(保健安全部・専科の先生)
- 当日の会場図を靴箱前・一階廊下に個所に2ヶ所掲示する。(保健安全部)
- 防災ソング・防災キャラクターを児童には10月24日の児童朝会、保護者・地域の方には当日校長先生の話の中で紹介する。当日は掲示を行う。
- 防災ソングを移動時間に流し、移動の合図とする。
- 24日(木)5校時 縦割り班でブースを回るシミュレーションを行う。(生活・総合カウント)
教員は、その学年のブースに待機しておく。
4グループ同時に来るため、活動①は3組の班が3組に2グループずつ入る。
活動②は2組の班が2組に2グループずつ入る。
活動③は1組の班が1組に2グループずつ入る。
- 赤白帽子の正面に班の番号を書いたテープを張り付けておく。(24日までに各学級で)
帽子の色…1年生は赤
2～6年生は白

北小防災フェスティバル進行表

令和6年11月19日

時刻	日 程	担当・分担
11:30	3校時授業終了後 給食開始	3校時終了までに各ブースの準備をしておく。 パネル設置 10/29 運搬 給食室と連携 (山根) (主幹・保健主事) 3校時終了チャイムの後から手動チャイム (主幹・沖山)
12:15	給食終了	12:00 頃から
12:20	帰りの準備・トイレ休憩	ゲストティーチャー受付・接待等 社会福祉協議会 自主防災 西消防署昭和分署 保護者案内 (下足場) 手動チャイム (沖山) 各ブースの最終準備 (各学年・担任) 開会式 (放送室) 準備 保健主事 (寺川)・校長 担任外の先生はそれぞれの担当場所で待機→井早 (保健室・体調不良児童の対応), 沖山 (職員室・手動チャイム), 主幹 (放送・手動チャイム), 藤平 (運動場補助), 神笠 (体育館補助), 山根 (炊き出し補助), 三根 (2年生の補助) 羽根, 児玉, 吉田, 河本, 岩見 (児童補助)
12:30	開会式 (放送)	【児童・担任】 各教室で放送を聴く。※ひまわり児童は交流学級へ <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【保健主事】 「ただいまより、令和6年度北小防災フェスティバルの開会式を行います。」 「始めに、学校長より挨拶がございます。」</p> <p>【校長】 ～ 学校長挨拶 ～ (2分)</p> <p>【保健主事】 「続きまして私の方から諸注意があります。まずは児童の皆さんにもう一度3点確認を行います。1点目です。防災フェスティバルは3回に分けて行います。時間はそれぞれ30分です。1回目は2組の人、2回目は1組の人、3回目は3組の人が各学年のブースに残って発表します。それ以外の方は縦割り班で各ブースを回ります。その際、6年生のリーダーを先頭に並んで移動してください。活動終了5分前の放送を聞いたらもう少しで終了すると思ってください。移動の合図は防災ソング、活動の始まりの合図はチャイムです。チャイムが鳴ったら次の活動や発表に移動します。活動開始もチャイムでお知らせします。 -(2点目です。トイレに行く場合は今いるブースの近くのトイレを利用してください。その際、必ず6年生のリーダーに伝えてから行ってください。)-</p> <p>2点目です。各ブースの始めと終わりに挨拶をしましょう。3点目です。廊下は右側を黙って移動しましょう。6年生のリーダーさんよろしくお願いします。」</p> <p>「次に保護者の皆さん・地域の皆さんにお願いがございます。大人数での移動や活動となりますので、お子様が発表する教室等でのご参観にご協力をお願いします。では、児童の皆さん、自分の命は自分で守るために防災についてみんなで一緒に学びましょう。」</p> <p>【保健主事】 「それでは1回目の防災フェスティバルを始めます。1班～16班、33班～48班の人は運動場に静かに移動し、縦割り班ごとに並びましょう。1回目の発表を担当する児童の皆さんは準備をしましょう。」</p> </div>
12:35	移動・集合・準備	手動チャイム (主幹) 各学年の2組の児童は各学年のブースで発表等の準備 1班～16班 (1組児童), 33班～48班 (3組児童) は運動場に縦割り班ごとに並ぶ。 6年リーダーは班の番号カード等を提示し並ばせる。 ※雨天の場合は体育館等 ※欠席児童がいる場合は事前に6年担任に伝え、リーダーに周知する。

12:45		手動チャイム (沖山)
	防災フェスティバル活動①	30分で4ブースを回る。残りの4ブースは次の活動時間で。周る順番の紙を6年リーダーが持って活動させる。
		13:10になったら5分前放送 「1回目活動終了まで残り5分です。」(主幹)
13:15	移動・集合・準備	手動チャイム (主幹) 各学年の1組の児童は各学年のブースで発表等の準備 17班～32班(2組児童)は体育館に集合縦割り班ごとに並ぶ。(担任声掛け)6年リーダーは班の番号カード等を提示し並ばせる。 33班～48班(3組児童)は次に回るブースの廊下等で並んで待機させる。
13:25		手動チャイム (沖山)
	防災フェスティバル活動②	30分で4ブースを回る。残りの4ブースは次の活動時間で。周る順番の紙を6年リーダーが持って活動させる。
		13:50になったら5分前放送 「2回目活動終了まで残り5分です。」(主幹)
13:55	移動・集合・準備	手動チャイム (主幹) 各学年の3組の児童は各学年のブースで発表等の準備 1班～16班(1組児童)は体育館に集合縦割り班ごとに並ぶ。(担任声掛け)6年リーダーは班の番号カード等を提示し並ばせる。 17班～32班(3組児童)は次に回るブースの廊下等で並んで待機させる。
14:05		手動チャイム (沖山)
	防災フェスティバル活動③	30分で残りの4ブースを回る。 周る順番の紙を6年リーダーが持って活動させる。
		14:30になったら5分前放送 「3回目活動終了まで残り5分です。」(主幹)
14:35	移動	手動チャイム (主幹) 「児童の皆さんは自分の教室に戻りましょう」(主幹) 児童は各教室に戻る。担任外の先生は動かず待機 閉会式(放送室)準備 保健主事(寺川)・校長
14:40	閉会式(放送)	【児童・担任】各教室で放送を聴く。※ひまわり児童は交流学級へ 【保健主事】「ただいまより、令和6年度北小防災フェスティバルの閉会式を行います。」 「皆さん、北小防災フェスティバルはいかがでしたか。～(振り返り)～地域の災害の危険性について知り、自分の命は自分で守る行動がとれるように日頃から準備をしておきましょう。また災害はいつどこで起こるか分かりません。だからこそ自分のこととして防災について考えることができる人になりましょう。」 【保健主事】「お世話になった方々へ6年組 ○○ ○○さんが代表してお礼の言葉を言います。」 【児童代表】～お礼の言葉～(2分) 【保健主事】「以上で北小防災フェスティバルを終わります。」
14:45	終了	

15:00	下校（1～4年） 片付け（5・6年）	バス：通常便
15:40	下校（5・6年）	バス：北コース15:52（北小前） 熊野コース16:14（北原）※下校15:30→15:44
16:00	運動場、体育館（パネルの撤去等の片付け、整地）	教職員で パネルは本日中に呉市役所に返却（主幹・保健主事）

防災フェスティバル 変更点 共有事項

【児童の動きについて】

○班長は時計を付けて時間を確認しながら回る。

○活動時間の中で終了事項よりも早く、すべてのブースを回り終わった場合も移動の合図までその場で待っておく。

○活動終了後、各教室に戻る際の移動は、各自で移動する。**黙って右側を歩いて移動することを指導する。（右側通行を徹底させる。）**

○5年生の炊き出しでは、ブースに着いた班から八寸を受け取り、食べながら活動スタートを待つ。食べられなかった場合は残す。始めから食べられない児童は「食べられません。」と伝え、受け取らない。

【教員の動きについて】

○迷子がいた際には、近くの内線、携帯電話で職員室へ連絡を入れる。→職員室にいる職員が放送をかける。

○やむを得ず、すべてのブースを回ることができない場合があるかもしれないことを指導しておく。

○掃除時間、休憩時間の移動の際にも**黙って右側を歩いて移動することを指導する。（放送や声かけでなく見守る。）**

【その他】

○活動の開始には、チャイムだけでなく、活動の始まりのアナウンスを入れる。

○ぞうきんを下足場と各靴箱の間にも置いておく。**北校舎へ行く班は、下足場側から、南校舎やピロティ・体育館へ行く班は、靴箱の間を**通って移動する。****

○南校舎一階廊下は、給食室側から保健室側に向かって一方通行とする。（ひまわり学級前の展示が混雑するため。）

4-1からの移動になるため、廊下や階段に矢印を掲示しておく。

○教室では、後ろの扉を入り口・前の扉を出口とする。入り口・出口の掲示をする。

○教室の保護者の参観エリアは、教室後ろロッカー前とする。

○参観エリアの掲示・写真撮影を控えていただく掲示をする。

【保護者の方へのお願い】

○ぞうきんを踏んで、土足で校舎内にお入りください。傘がある場合には、持ったまま移動をお願い致します。

○教室でのブースを参観される際には、教室後ろ側のロッカー前での参観をお願い致します。

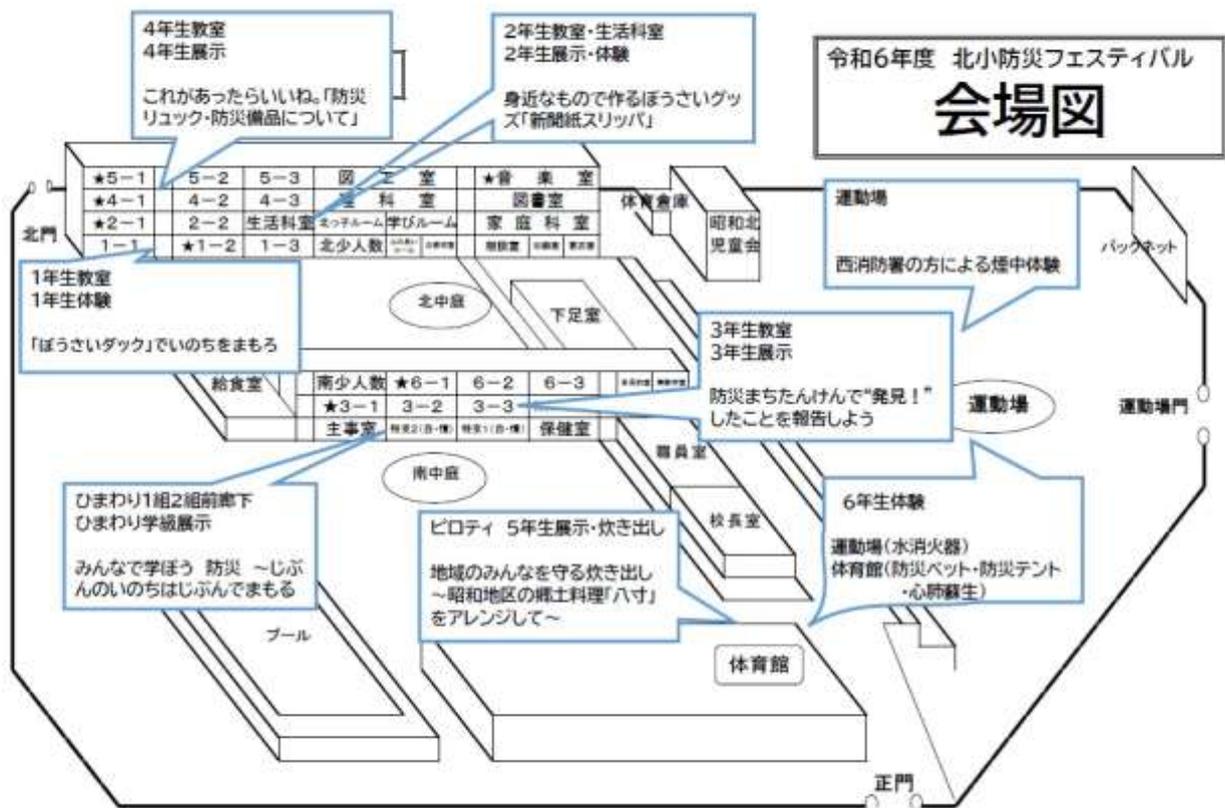
○動画や写真の撮影はご遠慮ください。

○廊下の移動は、右側通行でお願い致します。

※南校舎一階廊下は、給食室側から保健室側に向かって一方通行

職員室前廊下は、左側通行となります。

○児童は、迷子にならないよう、黙って移動します。移動中のお子さんに声をかけることはご遠慮ください。



自分の命は 自分で守る↑

みんなが 考えた 防災の 合言葉↑

昔の人は 言いました ↑

日々の備えが 役に立つ ↑

防災グッズをそろえよう ↑

お水 よし↑

食料 よし↑

ラジオ よし↑

懐中電灯 よし↑

ヘルメット よし↑

落ち着いて 行動だ↑

ゆだんは きんもつだ↑

みんな 一つの命↑

みんなの命を 大切に↑

自分の 命は 自分で 守ろう↑



学年	防災学習名
1年	「ぼうさいダック」で いのちを まもろう
学習の概要	・災害に対しての最初の第一歩(ファースト・ムーヴ)を, 実際に身体を動かし遊びながら学ぶ。

学習内容	教師の支援・留意点
1 さまざまな災害を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や地震のニュースに関連させて, マイタイムライン等を活用しながら災害について知ったり興味をもったりする機会を作る。 ・社会福祉協議会の方や地域の方々から「防災ダック」について紹介していただき, 実際に体験する。楽しい雰囲気動きをしっかりと身に付けさせ, なぜその動きが必要なかを意識させるようにする。 ・自分の命を守るために大切な動きを知り, 学んだことを今度は自分たちが大切な人達に伝えようという意欲を高める。 ・災害で気を付けること, その動物に変身する理由, その動きをする理由が伝わるように, 児童に言葉を考えさせる。 ・災害や動物の絵のカードを作成し, 台本を読む練習, 動きを伝える練習等を行う。 ・それぞれの災害がどんなものなのか, 防災ダックの紹介の前に簡単に教師が説明する。児童には園児によく伝わるように, 大きな声でゆっくり言葉をいうこと, 動きを大きくすること等を意識させる。また, 園児が楽しく学べるように, 音楽に合わせて動いたりクイズ形式で災害と動きの確認をしたりする。 ・紹介される側にも, 一緒に防災ダックの動きをしてもらい, 災害の時のファースト・ムーヴを覚えてもらう。
2 ゲストティーチャーから, 「防災ダック」を学ぶ。	
3 学んだことを, 幼稚園・保育園の園児や, おうちの人, 地域の人達にも伝える計画を立てる。	
4 防災ダックを紹介するための台本づくりをする。	
5 準備や練習をする。	
6 幼稚園や保育園の園児を招待し「防災ダック」を紹介したり, 防災ダッククイズを行ったりする。	
7 防災フェスティバルで, 「防災」ダックを, 地域の方やおうちの人に紹介する。	

工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命を守る動きを楽しく分かりやすく伝えることができた。 ・災害の種類ごとに, なぜその動物に変身するのか, なぜその動きをするのかを, 児童の言葉で伝えることができた。 ・保幼小連携の取り組みと関連させて活動していくことができた。
-------	--

準備物	防災ダックカード(表は災害の絵, 裏は動物の絵) タブレット(災害のイラストをテレビに映す)
連携先	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会 ・民生委員 岡さん

様子が分かる写真

ゲストティーチャーによる「防災ダック」の指導



幼稚園や保育園の園児に「防災ダック」を紹介したり, 防災ダッククイズを行ったりする。



防災フェスティバル当日



学年	防災学習名
2年	新聞紙スリッパの作り方を伝えよう

学習の概要	新聞紙を使って災害時に使えるスリッパの作り方を紹介する。
-------	------------------------------

学習内容	教師の支援・留意点
1 いろいろな災害を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住んでいる呉市も西日本豪雨災害で被害があったことに触れ、防災意識をもたせる。 ・防災クイズをシリーズで行い、「自分の命は自分で守る」という意識を高める。 ・空き教室を防災ルームとし、津波や活動の写真を掲示し、意欲や興味が継続するようにする。
2 防災教室で呉市総務部危機管理課の方からお話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドやクイズを通して、災害から身を守るために大切なことを知る。
3 防災フェスティバルに向けた資料を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙スリッパや防災おさらの作り方を知る。 ・グループで教え合いながら作り方の説明の仕方を考える。
4 準備や練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表原稿をもとに、役割分担をする。 ・グループで聞き合いながら、練習をする。 ・看板やお土産のスリッパ作りをしたり、動きの確認をしたりする。
5 防災フェスティバルで、「新聞紙スリッパ」の作り方を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・スリッパが時間内にできるように、つくるのをサポートする。 ・お土産として、自分たちで作ったスリッパをプレゼントする。
6 6年生に「ありがとう」を伝えるお手紙を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の学習と関連付けて、お礼のお手紙を書く。

工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の防災意識が高まるように、クイズ形式を取り入れたり講師を招いてお話を聞いたりする活動を取り入れた。 ・国語科や図画工作科と関連させ、継続して取り組めるようにした。 ・学級を超えて学年で取り組めるように、時間割を調整したり空き教室を活用したりした。 ・自信をもって取り組めるように、動きのリハーサルをした。
-------	--

準備物	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙 ・発表原稿 ・お土産のスリッパ(班ごとにまとめておく。) ・看板(黒板にはるもの)
連携先	<ul style="list-style-type: none"> ・呉市総務部危機管理課 勝宮 章様 防災講話申込書を Fax で送信 電話(0823)25-3326 Fax(0823)25-0315

様子が分かる写真

図画工作科 新聞紙となかよし



防災学習



9月26日 防災教室



防災食についての学習



防災フェスティバル当日



学年	防災学習名
3年	防災散歩で発見したことを発表しよう～自分の命は自分で守る～

学習の概要	地域を散歩し、避難する際に危ない場所や知っておくべき場所をマップにまとめて発信し、自身の生活につなげる。
-------	--

学習内容	教師の支援・留意点
1 ハザードマップを活用して、昭和地区の危険箇所を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・呉市のホームページから、洪水・土砂災害のハザードマップを提示し、危険箇所があることに気づかせる。
2 防災リーダーの方と本庄・泉が丘を実際に歩き、危険箇所について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災リーダーの方から教えていただいたことを写真や文章にまとめる。 ・実際に見て歩くことで、危険箇所が身近にあることに気づかせる。
3 防災散歩で発見した危険箇所をマップにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所の写真をつけて地図にまとめることで、地域のどの場所なのかを分かりやすくする。 ・防災散歩で発見したことを文章にまとめる。
4 マップにまとめたことを児童同士で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士で発表を見合っ、良かった点や改善点を交流する。 ・交流したことをもとに、原稿を直したり発表練習をしたりさせる。
5 防災フェスティバルで発見したことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・マップを提示して、発見した写真をもとに危険箇所についての説明をさせる。
6 防災散歩を通して、学んだことを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住んでいる地域を見学しての気づきを交流させる。

工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・防災リーダーの方に協力を仰ぎ、防災散歩を行う。 ・歩いた地域の地図を拡大して写真にまとめる。
-------	--

準備物	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所の写真 ・昭和北小学校付近の地図
連携先	・防災リーダー 畠山さん、平畝さん

様子が分かる写真

防災散歩のようす(昭和地区自主防災組織の方々と)



防災フェスティバル当日



学年	防災学習名
4年	町の防災 ～あったらいいな, こんなグッズ～

学習の概要	・災害について考え, 命を守る行動として何ができるか考え, 防災リュックを作ってみる。
-------	---

学習内容	教師の支援・留意点
1 災害とは何だろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースなどでよく聞く災害について考える。 ・災害をいろいろ考える。 ・避難訓練の取り組みを振り返る。
2 自分にできることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きる前に自分にできることを考えさせる。 ・水や食料以外について考える。
3 防災リュックを作ろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に何が必要になるか考える。 ・リュックには荷物は少なめ, 家の備品は数日間分と区別するようにする。。
4 実際に地域の防災士の方の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門の方の話を聞き, 発表に生かそうとする。
5 防災フェスティバルに向けて自分たちにできることを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに発表内容を考える。
6 これまでに学んだことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の練習をする。
7 防災フェスティバルの発表。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く人を意識して思いを伝えさせる。
8 発表後の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での防災の広がりを交流する。
9 自分にできること・家族でできることをまとめる。	

工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で作ったり, 準備したリュックを持ってきたり, 写真に撮ったりして交流をした。 ・避難所へ持っていく「防災リュック」と家に置いておく「防災備品」を区別させる。
-------	---

準備物	予算で購入した防災リュック3つ
連携先	・防災士 畠山様 ・平畝様



縦割り班に紹介



発表の様子



グッズやクイズを発表中。



防災リュックの紹介

学年	防災学習名
5年	地域 みんなを守る炊き出し～昭和地区の郷土料理「八寸」をアレンジして～

学習の概要	・炊き出しを行う意味や目的について考え、自分たちで食材を選び炊き出しを行う。
-------	--

学習内容	教師の支援・留意点
1 米作りを行う。(総合的な学習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に田植え, 10月に稲刈りを行う。 ・奥先生の勉強会で「無洗米」「備蓄米」について話をさせていただく。 ・奥先生にお願いし, 無洗米にさせていただく。
2 昭和地区の郷土料理「八寸」づくりを行う。(総合的な学習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・10月上旬に昭和西女性会の方に来ていただき, 八寸の歴史や作り方を教わり, 実際に作る。
3 わたしたちの食料生産の学習で「食料」の大切さを学ぶ。(社会科)	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭と IT で授業を行い, 食料の大切さや食べることの必要性, 災害時の避難所での栄養について学ぶ。
4 実際に被災された方の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に被災された話を聞き, 食料がその時になかったことを知り, 炊き出しを行うことにした。
5 防災フェスティバルに向けて自分たちにできることを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・炊き出しとして, 「八寸」を作るのあたって, アレンジする視点をもたせる。
6 これまでに学んだことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ① 大人から子どもまで食べられる。 ② アレルギーがないもの。 ③ すぐに作れるもの。 ④ 多くの人に食べやすい味。 ⑤ 栄養素のバランス などが児童から出た意見。
7 防災フェスティバル当日に, 午前中に八寸作り・お湯ぽちゃでのおにぎり作りを行い, 午後から提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「炊き出しについて」「八寸について」「お湯ぽちゃについて」「備蓄米・ローリングストックについて」など ・八寸は, 家庭科室(包丁を使うもの)で作る。こんぶとこんにゃく(はさみ)は理科室(新聞紙敷く)で材料を用意する。米の準備(ビニル袋・水)も理科室で行う。

工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の活動から, 新聞紙でお皿を作った。2年生に教わった。(他学年交流) ・北小産のお米を無洗米にさせていただき, 使用したことでより身近な食品で炊き出しを行うことができた。 ・地域の郷土料理から, 炊き出し用に材料を精査し, 作ることができた。
-------	---

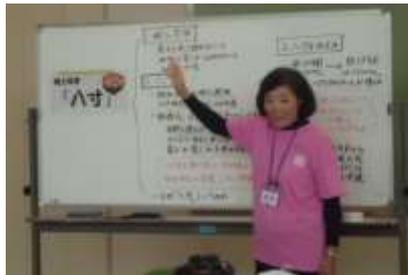
準備物	大鍋(8個)・ガスコンロ(8個)・ガスボンベ・小さい鍋・八寸の材料(こんぶ・こんにゃく・にんじん・れんこん・ごぼう・大根)・バット・ハサミ・まな板・包丁・ピーラー・お玉・さいばし・無洗米(北小産)・ラップ・はし(児童保護者用)・お湯ぽちゃ用ビニル袋・ビニル袋 s・新聞紙(皿用・調理用)・発表用画用紙にまとめたもの
連携先	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和西女性会(八寸づくり) ・奥先生(米づくり) ・平畝さん(本庄備蓄倉庫), 昭和北中学校(備蓄品・避難所)

様子が分かる写真

米づくり・勉強会の様子(奥先生と)



八寸作り(西女性会の皆さんと)



防災フェスティバル当日



学年	防災学習名
6年	自分の命は自分で守ろう～体験を通して～

学習の概要	災害時に命を守る方法や避難所での生活について、体験を通じた発表をする。
-------	-------------------------------------

学習内容	教師の支援・留意点
1 学習計画を立てる。(総合的な学習の時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害にはどのようなものがあるか、防災とは何か、命を守るために自分たちにできることは何かを考えさせ、課題意識をもたせる。 ・6年生として、自分の命だけではなく、家族の命や地域の人の命も守るという視点をもたせる。
2 防災フェスティバルで発表したいことについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・4つのグループに分かれて発表を行うこととおさえる。 ・どんな発表ができそうか話し合い、意見を出させる。
3 防災ベッド、防災テント、消火器、あっぱくんの使い方について、ゲストティーチャーから講習を受ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・教えていただくことが、命を守ることとどのようにつながるのか意識させる。 ・事前に質問事項を考えさせる。
4 学んだことを整理し、発表原稿を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で、説明と体験が両立できるような構成にさせる。
5 発表練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・他クラスと合同の総合を組み、発表を見合う。意見を交流して、発表をよりよくさせる。
6 災害時に命を守る方法や避難所での生活について、体験を通じた発表をする。(当日)	<ul style="list-style-type: none"> ・来た人全員が体験できるように時間配分を考える。 ・自主防災の方や消防署の方に来ていただき、サポートをしてもらう。

工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・発表では一緒に体験する時間を設け、発表内容について身をもって感じてもらえるようにする。 ・「助け合うこと」や「譲り合うこと」など命をつないでいくために必要となる考え方についても発表内容に取り入れる。 ・発表内容が命を守ることとどのように繋がるのかという視点をもたせ、ブレないようにさせる。
-------	---

準備物	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ベッド2つ(自主防災の方からの借り物) ・防災テント4つ(うち2つは自主防災の方からの借り物) ・消火器2つ(消防署からの借り物) ・あっぱくん(消防署からの借り物) ・AED(消防署からの借り物) ・マット4つ ・発表用画用紙
連携先	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災 島山さん 平畝さん ・呉市消防局 西消防署 昭和分署

様子が分かる写真

ゲストティーチャーの授業(写真が撮れなかったためベッドとテントのみ)



発表準備・練習



防災フェスティバル当日



防災ベッド



防災テント (発表)



心肺蘇生 (発表)



水消火器



防災テント (体験)

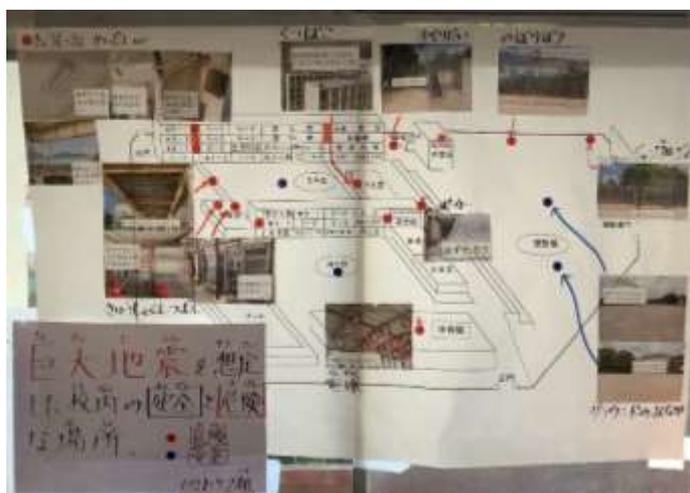


心肺蘇生 (体験)

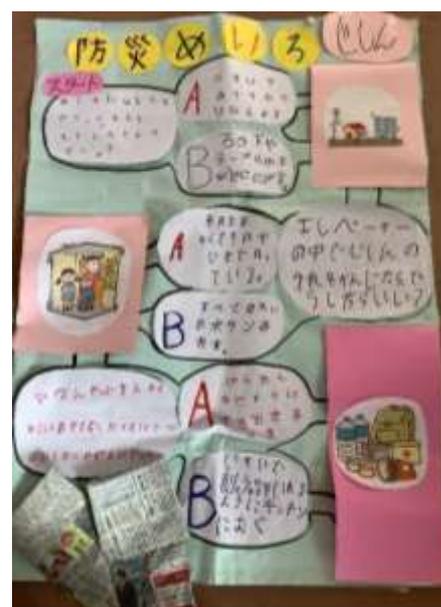
防災フェスティバル 実践報告(ひまわり)

学級名	ひまわり1組(自閉症・情緒)	ひまわり2組(自閉症・情緒)	ひまわり3組(知的)
防災学習名	災害に備えよう	校内の安全と危険	防災を楽しく学ぼう ～防災めいろ(地震・台風)～
学習の概要	・災害発生時に役に立つ身近な道具や調理方法について学ぶ。	・地震発生時に校内の安全な場所と危険な場所について調べて、伝える。	・地震や台風から避難する時に必要な知識を伝える。
工夫した点	・災害時に役立つ身近なものを知ることで、災害への備えに興味・関心をもちやすくした点。	・校内の安全・危険個所を調べることで、災害を自分事として捉えられるようにした点。	・防災に関する知識をクイズや迷路で楽しく学べるようにした点。
準備物	・災害発生時に役立ちそうな道具・食品 ・タブレット	・校内図 ・丸シール ・カラーペン ・カラーペン	・模造紙 ・画用紙 ・カラーペン
防災フェスティバル当日	・ひまわり1組前方窓の廊下側にテレビを設置し、調理実習をした中で児童がおすすめのレシピを動画で流した。	・ひまわり2組後ろ側ドアの廊下側に掲示。	・ひまわり1組後ろ側ドアの廊下側に迷路を掲示。

ひまわり2組
構内の安全危険個所



ひまわり3組
防災めいろ



総合的な学習の時間（生活科） 第1学年
単元名「じぶんのできるよ」

1 単元の概要

本単元では、小学校学習指導要領生活の内容（2）「家庭と生活」に位置づけられる。身の回りの環境や地域を学習の対象としている。家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に行ったりすることを通して、家庭での生活は互いに支え合っていることに気付くことができ、自分の役割を積極的に果たしたり、自分や周りの人の命を大切に安全に生活をしようとすることを目指している。

1 学期の生活科「みんなでつうがくろをあるこう」では、通学路にある安全を守るための物や、危険な場所について話し合った。授業日前に豪雨による休校があり、実際に自然災害を想定して授業に臨むことができた。学んだことや調べたことを異学年や地域の人へ伝えられるよう学習を進めていく。

災害が起こる前から自分で命を守る行動が大切と気付き、自分や周りの人の命を大切に生活しようとする態度を育てることもねらいの一つである。

2 単元の目標

- 家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に行ったりすることを通して、家庭での生活は互いに支え合っていることに気付くことができる。(知識・技能)
- 家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に行ったりすることを通して、家庭における家の人のことや自分でできることなどについて考えることができる。(思考・判断・表現)
- 家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に行ったりすることを通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に行ったりしている。 ② 学んだことを、整理して、活用している。 ③ 家庭での生活は互いに支え合っていることに気付いている。	① 家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に行ったりして、課題を見いだしている。 ② 課題に即して、必要な情報を収集している。 ③ 収集した情報や、グループで考えた意見をまとめたり表現したりしている。	① 家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に行ったりして、自分の役割を積極的に果たそうとしている。 ② 自分や周りの人の命を大切に生活しようとしている。

4 単元の展開（11時間）

学習過程 (時間数)	活動内容	知	思	態	指導のポイント・関連する教科等
1 (1)	課題の設定 ・自然災害が起きたら、どんなことに気を付けたらいいだろう。 ※単元のゴールを示し学習の見通しをもつ。			①	・学活 「雨の日のすごしかた」 ・生活科 「みんなでつうがくろをあるこう」
2 (1)	体験する ・防災タッグを体験しよう。 ※ゲストティーチャーから防災ダックを体験させてもらう。	①	①		・道徳科 「どきどきどっきんぐ」 ・体育科 「多様な動きをつくる運動遊び」
3 (1)	計画をたてる ・防災タッグをもっといろんな人に知らせよう。 ※どのように知らせるか計画を立てる。	②	②	①	・国語科 「はなしたいな ききたいな」 ・音楽科 「まねっこあそび」
4 (5)	準備・練習 ・防災フェスティバルに向けて準備をしよう。 ※防災フェスティバルで防災ダックを異学年や地域の人に紹介するための準備をする。	②	③	①	・国語科 「はなしたいな ききたいな」 図画工作科 「うきうきボックス」
5 (1)	実践・発表 ・防災ダックを紹介しよう。 ※グループごとに防災ダックを紹介する。			②	・国語科 「すきなきょうかをはなそう」
6 (1)	まとめ ・ ※本単元の学習を振り返る。				



は防災フェスティバル

総合的な学習の時間（生活科） 第2学年
単元名「 つながる広がるわたしの生活 」

1 単元の概要

本単元は、小学校学習指導要領生活の内容（3）「地域と生活」に位置づけられる。地域と関わる活動「町たんけん」を通して地域の場所やそこで生活している人々について考えることができ、自分たちの生活はさまざまな人と場所と関わっていることがわかり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりできるようにすることを目指している。

1 学期の図画工作科の単元「新聞紙となかよし」と関連付けて、自然災害時に避難所で使える「新聞紙スリッパ」の作り方を異学年や地域の人へ伝えることを目標に学習を進めていく。また異学年交流や地域の人との交流を通して、地域の安全に目を向け防災意識を高めるとともに、地域で安全に楽しく生活しようとする態度を育てることもねらいの一つである。

2 単元の見積

- 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさに気付くことができる。（知識・技能）
- 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々に伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる（思考・判断・表現）
- 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々に伝え合う活動を通して、地域の人々に親しみをもち、進んで触れあい、交流しようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①伝え合う活動において、適切な挨拶や言葉遣いをしている。 ②自分たちが伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさや伝え方があることが分かっている。 ③自然災害の種類や災害時の避難の仕方を理解する。	①誰に伝えるかを思い描きながら、伝えたいことを選んでいく。 ②相手や目的に応じて、伝え方を選んでいく。 ③これまでの体験を基に、相手のことを思い浮かべながら伝え方を工夫している。	①自分たちの生活や地域の出来事を伝えたいという思いをもち、進んで触れあい交流しようとしている。 ②相手の反応や状況に合わせて、多様な方法で伝えたいことや気持ちを表そうとしている。 ③身近な人々と関わることのよさや楽しさを実感し、多様な人々との関わりを自ら築いていこうとしている。

4 単元の展開（11時間）

学習過程 (時間数)	活動内容	知	思	態	指導のポイント・関連する教科等
1 (1)	課題の設定 ・自然災害が起きた際に自分たちにできることがないかを話し合う。 ・単元のゴールを示し学習の見通しをもつ。			①	・自分たちの住んでいる呉市も西日本豪雨災害で被害があったことに触れ、防災意識をもたせる。 「道徳科」(いま、ぼくにできること)
2 (3)	情報収集 ・学校周辺や通学路で自然災害が起きた際に危険箇所となる場所を話し合う。 ・災害時の地域の取り組みや避難の仕方を知る。 ・グループごとに防災探検に行く。	① ③		①	・タブレットを活用して情報収集を行い防災意識を高める。 ・防災探検を見据えてお家の人にインタビューを行い、話し方・聞き方を意識させる。 「生活科」(もっとなかよしまちたんけん) 「国語科」(はたらく人に話を聞こう)
3 (5)	整理・分析 ・防災フェスティバルに向けて学年で取り組む内容を把握する。 ・防災フェスティバルに向けた資料を作成する。 ・紹介する内容をグループごとにまとめる。 ・作成した資料の見直しと、発表の練習を行う。	② ③		① ②	・防災探検で調べた内容を紹介する順序を意識してまとめる。 ・紹介する内容を準備する際に場や人に適した言葉遣いをするように指導する。 「国語科」(話そう二年生のわたし) 「図画工作科」(新聞紙となかよし)
4 (1)	実践・発表 ・グループごとに「新聞紙スリッパ」の作り方を紹介する。 ・作り方や防災探検で学習した内容を紹介する。			②	・伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫させる。 ・作り方のポイントや一番伝えたいことを明確に伝えるようにさせる。 ・「国語科」(話そう二年生のわたし)・「図画工作科」(新聞紙となかよし)
5 (1)	まとめ ・本単元の学習を振り返る。 ・友達と学習した内容を共有し今後取り組みたいことを話し合う。			③	・学習した内容を今後の学校生活や私生活にも生かすことができるように指導する。 「国語科」(町で見つけたことを話そう)

は防災フェスティバル

総合的な学習の時間 第3学年
単元名「 防災マップを作ろう 」

1 単元の概要

総合「防災マップを作ろう」

- ① ハザードマップについて知る。
- ② 自分達が住んでいる地域の調査として自主防災組織の方々に帯同していただき防災散歩を行う。
- ③ ハザードマップに分かったことを写真等でまとめ、地域に発信する。(防災フェスティバル)

2 単元の目標

- ハザードマップについて知り、得た情報から自分達が住んでいる地域の災害の危険性を理解することができる。(知識・技能)
- 防災散歩から得た情報を活用し、地域の方にわかりやすく伝えることができるような発表方法を考え、表現することができる。(思考・判断・表現)
- 自分達が作った防災マップの内容を伝える活動を通して、地域の人々に親しみをもち、進んで触れあい、交流しようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ハザードマップから自分たちが住んでいる地域の危険性を読み取る力を身に付けている。 ② 自然災害の種類や災害時の避難の仕方を理解している。	① 収集した情報を比較・検討して整理・分析することができる。 ② 相手や目的に応じた伝え方で表現することができる。	① 学んだことを実生活で生かそうとする。 ② 学んだことを積極的に発信しようとしている。

4 単元の展開（11時間）

学習過程 (時間数)	活動内容	知	思	態	指導のポイント・関連する教科等
1 (1)	課題の設定 ・自然災害が起きた際に自分たちにできることがないかを話し合う。 ・単元のゴールを示し学習の見通しをもつ。			①	・自分たちの住んでいる呉市も西日本豪雨災害で被害があったことに触れ、防災意識をもたせる。 「社会科」(わたしのまち・みんなのまち)
2 (3)	情報収集 ・学校周辺や通学路で自然災害が起きた際に危険箇所となる場所を話し合う。 ・災害時の地域の取り組みや避難の仕方を知る。 ・グループごとに防災探検に行く。	① ③		①	・タブレットを活用して情報収集を行い防災意識を高める。 「社会科」(くらしを守る)
3 (5)	整理・分析 ・防災フェスティバルに向けて学年で取り組む内容を把握する。 ・防災フェスティバルに向けた資料を作成する。 ・紹介する内容をグループごとにまとめる。 ・作成した資料の見直しと、発表の練習を行う。	② ③ ①		②	・防災探検で調べた内容を紹介する順序を意識してまとめる。 ・紹介する内容を準備する際に場や人に適した言葉遣いをするように指導する。 「国語科」(話したいな、すきな時間)
4 (1)	実践・発表 ・グループごとにポスターセッションを行い、ハザードマップを活用した避難経路の作製(我が家の防災マップ)を呼びかける。 ・作り方や防災探検で学習した内容を紹介する。		②		・伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫させる。 ・作り方のポイントや一番伝えたいことを明確に伝えるようにさせる。 「国語科」(話したいな、すきな時間)
5 (1)	まとめ ・本単元の学習を振り返る。 ・友達と学習した内容を共有し今後取り組みたいことを話し合う。			③	・学習した内容を今後の学校生活や私生活にも生かすことができるように指導する。 「社会科」(くらしを守る)

は防災フェスティバル

総合的な学習の時間 第4学年
単元名「町の防災」

1 単元の概要

自然災害から地域を守ろう。

西日本豪雨の際、校区内でどんな被害が出たのか調べる

2 単元の目標

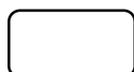
自分にできることを考え、行動することを通して、自らの生活の在り方や将来の展望をもととする態度を養う
自然災害から地域を守ろう。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の自然や施設、人々のすばらしさ及びそれを守ろうとする多くの人たちの工夫が分かる	相手の考えに共感したり、多様な考えを共有したりし、あらゆる角度から総合的に考え問題を解決することができる。	逆境や困難な状況でも、自らの課題に向き合い、取り組もうとする。学んだことを実生活で生かそうとする。

4 単元の展開（11時間）

学習過程 (時間数)	活動内容	知	思	態	指導のポイント・関連する教科等
1 災害は何がありますか。	・防災について考える。				社会科「住みよいくらしをつくる」
2 災害が起きたらどうする	・災害が起きたときの行動を考える。				社会科「水はどこから」
3 防災リュックを作ろう	防災リュックを作ろう。 ・何があったらいいだろう。 ・なかったら困ることは何だろう。 ・使い方を知ろう。 ・実際に使ってみよう。				
4 町の被害を調べよう	西日本豪雨の際、校区内でどんな被害が出たのか調べる。				
5 地域を知ろう	校区内で災害の起こりそうなところはどこか調べる。				



は防災フェスティバル

総合的な学習の時間 第 5 学年
単元名 「 地域の郷土料理や文化を調べよう 」

1 単元の概要

総合「地域の郷土料理や文化を調べよう」

- ① 昭和地区の郷土料理「八寸」について調べる。
- ② 調べたことや女性会の方に聞いてみたいことをまとめる。
- ③ 女性会の方に来ていただき、八寸について知り、八寸作りを教えていただく。

総合「おいしい米づくりをしよう」
 社会「わたしたちの生活と食料生産」
 地域の奥先生と田植えから育ててきた米を収穫する。

↓

防災について考え、自分たちにできることを話し合う。
 防炊き出しに適した八寸づくりについて考える。(材料や作り方の工夫など)

↓

食北小で育てた米といっしょに炊き出しとして八寸を作り提供する。

2 単元の目標

- (知識・技能)
- (思考・判断・表現)
- (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ※概念的な知識の獲得 ② ※自在に活用することが可能な技能の習得 ③ ※探究的な学習のよさの理解の三つに関して作成する。	① ※課題の設定 ② ※情報の収集 ③ ※整理・分析 ④ ※まとめ・表現の各過程で育成される資質・能力を児童の姿として作成する。	① ※自己理解・他者理解 ② ※主体性・協働性 ③ ※将来展望・社会参画などについて育成される資質・能力を児童の姿として作成する。

4 単元の展開 (時間)

学習過程 (時間数)	活動内容	知	思	態	指導のポイント・関連する教科等
1 昭和地区の食の歴史や、調理方法、自分たちとの関わりについて考えたり調べたりする。(5)	・昭和地区で伝統的に作られている料理について調べる計画を立てる。 ・タブレットを活用したり、お家の方や地域の方にインタビューしたりして調べる。 ・昭和地区の伝統料理を受け継ぐための方法を考える。	①			・調べたことから伝統的な料理があまり知られていないことに気付かせる。 「わたしたちの生活と食料生産」(社会科)

<p>2 昭和地区の食文化の伝統を受け継ぐ。 (9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・八寸作りの計画を立てる。 ・八寸の作り方や由来を調べる。 ・八寸を作る。 ・八寸を受け継ぎ広めるために自分たちにできることを考え、実行する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・大量の料理を作る方法についても意識して学ばせる。 「食べて元気に」(家庭科)
<p>3 防災について考え、自分たちにできることを話し合う。 (3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の笑顔を守る」という視点から、自分たちにできることを考える。 ・「食」をテーマにできることを考える。 ・ライフラインが停止しても、どんな人でも食べられるようアレンジしたり、工夫できることを考える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの学んだことが活かせるよう発問をしていく。 「地域の郷土料理や文化を調べよう」(総合) 「食べて元気に」(家庭科) 「おいしい米づくりをしよう」(総合) 「わたしたちの生活と食料生産」(社会科)
<p>4 稲刈りをする。(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奥先生に教えていただきながら、稲刈りをする。 ・刈った米をどのように活かすか考える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・刈った米の防災の視点から活用方法を考えさせる。 「おいしい米づくりをしよう」(総合)
<p>5 北小で育てた米といっしょに炊き出しとして八寸を作り提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・材料を準備する。 ・八寸を作るグループと米を炊くグループに分かれる。 ・完成した炊き出し用にアレンジした「八寸」をふるまう。 ・ビニール袋を使った米の炊き方を紹介する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・衛生面・安全面には特に注意して指導を行う。 「地域の郷土料理や文化を調べよう」(総合) 「食べて元気に」(家庭科) 「おいしい米づくりをしよう」(総合) 「わたしたちの生活と食料生産」(社会科)
<p>6 これまでの学習の振り返りを行い、引き続き災害から地域を守ったり、地域の伝統を受け継いでいくことについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、これからの生活で自分たちができることを考えていく。 			<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の備えや備蓄品として作った米を残しておくことなどを考えさせる。 ・自分たちでできる手当についても意欲的に学んでいけるよう話をする。 「けがの手当」(保健)

は防災フェスティバル

総合的な学習の時間 第6学年
単元名「もしも自分が被災したら…」

1 単元の概要

近年日本では、地震や豪雨、津波など様々な自然災害が発生し、それにより多くの被害をもたらされている。呉市も平成30年7月起きた西日本豪雨災害により甚大な被害を受けており、本校が位置する地域でも、土砂災害が起きた。自然災害はいつ起こるか予測することができない災害であり、防災教育を進めていくことは喫急の課題と言える。自然災害から命を守るためには、自然災害を自分事として捉え、備えておくことが大切である。そこで本単元では、災害について関心をもち、被災後に命を繋ぐ方法を発信することをねらいとする。まず、身近な自然災害について調べ、被災後の課題について知る。その後、自然災害からより多くの命を守るために自分達にできることは何か考え、班ごとにまとめていく。単元の終末には、全校児童や保護者、地域の方が参加する防災フェスティバルを開催し、学習したことを聞き手に伝わるように発表する。

2 単元の目標

- 自然災害から身を守るために自分たちにできることは何か考え、発表する活動を通して、自然災害について知り、防災や減災についての知識・技能を身につけることができる。(知識・技能)
- 自然災害から身を守るために自分たちにできることは何か考え、発表する活動を通して、必要な情報を収集したり、考えたことを分かりやすくまとめたりすることができる。(思考・判断・表現)
- 自然災害から身を守るために自分たちにできることは何か考え、発表する活動を通して、自然災害から身を守るために、自分たちにできることは何か進んで考え、意欲的に表現しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

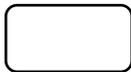
3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自然災害が起きたときの様子について、正しく理解している。 ②防災・減災についての知識・技能を身に付けている。	①課題意識をもち、取捨選択しながら必要な情報を収集している。 ②自然災害から命を守るために、自分達にできることは何か整理・分析している。 ③学習したことを聞き手にとって分かりやすく表現している。	①自然災害から身を守るために、自分たちにできることは何か進んで考え、課題解決のための方法を考えようとしている。 ②聞き手の反応に合わせて、学習したことを意欲的に表現しようとしている。

4 単元の展開 (19時間)

学習過程 (時間数)	活動内容	知	思	態	指導のポイント・関連する教科等
1 (1)	課題の設定 ・呉市で起きた災害について知り、自然災害について関心をもち。 ・単元のゴールを示し、学習の見通しをもち。 ・自然災害が起きた際に、被害を最小限に留めるために、自分たちにできることがないかを話し合い、発表内容を決定する。	①		①	・国語科 「話し合って考えを深めよう」 ・学活 「全校集会に向けて」

2 (4)	情報収集 ・避難所の様子や、被災後の様子について 調べ学習を行う。 ・発表に必要な情報について調べる。 ・教育委員会危機管理課の方のお話を聞く。	①	①	①	・国語科 「話し合って考えを深めよう」 ・道徳 「うちら「ネコの手」ボランティア」
3 (1 1)	整理・分析 ・調べたことを整理してまとめる。 ・防災フェスティバルで異学年や地域の人に紹介するための準備をする。 ・学級内で発表を見合い、アドバイスをもらって発表内容を推敲する。	②	②	②	・国語科 「話し合って考えを深めよう」
4 (2)	実践・発表 ・グループごとに調べたことを紹介する。 ・来てくれた方と一緒に体験的な活動を行う。		③	②	
5 (1)	まとめ ・本単元の学習を振り返る。			①	



は防災フェスティバル

呉市焼山本庄の昭和北小で31日、「北小防災フェスティバル」があった。1～6年生が4月から学んできた防災の知識を共有し、地域にも還元しようと同小が初めて企画。地域の自主防災リーダーたちを招いて学習の成果を発表した。

全校児童約560人が参加。地域を歩いて発見した危険箇所を地図上で紹介するなど、校内で学年ごとに発表した。5年生は炊き出しで、昭和地区

学んだ防災 地域に還元

昭和北小 危険箇所紹介炊き出しも

地元住民(右端)に八寸を振る舞う児童

の郷土料理「八寸」を振る舞った。友人と訪れた岡千鶴子さん(71)＝押込西平町＝は「子どもたちの防災意

識の高さに驚いた。新聞を使って作るスリッパなど、日常でも使えるアイテムを知ることができた」と語った。(開沼位晏)

防災教育の取組

(1) 学年

1 学期の取組

- ① 教科等名 (生活科)
- ② 単元名 「 みんなでつうがくろをあるこう 」
- ③ 学習内容
・通学路にある安全を守るための物や人について話し合う。
- ④ 成果 (○) と課題 (●)
○授業日前に豪雨による休校があり、実際に自然災害を想定して授業に臨むことができた。
○災害が起こる前から自分で命を守る行動が大切と気付いた。
●マイタイムラインを家庭で作成してもらう際の連携が難しい。
- ⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと
・特別活動「あめのひのすごしかた」では、防災授業で学んだことを振り返りながら何が大切かを考えた。

2 学期の取組

- ② 教科等名 (生活科)
- ② 単元名 「 じぶんでできるよ 」
- ③ 学習内容
・自分の命を守ることに関心を高め、防災ダックを体験し、紹介する。
- ④ 成果 (○) と課題 (●)
- ⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと

北小防災フェスティバル 10/31 (木)

- ① 発表形式 (防災ダックの体験, 掲示) 体育館希望
- ② 発表内容 防災ダックを紹介する。
- ③ 軸となる教科等 → 教科等 (生活科) 単元名 「 じぶんでできるよ 」
- ④ 関連させる教科等 → 教科等 (道徳科) 単元名 「 ときどき どっきんぐ 」
教科等 (体育) 単元名 「 多様な動きをつくる運動遊び 」
教科等 (国語) 単元名 「 はなしたいな ききたいな 」
教科等 (音楽) 単元名 「 まねっこあそび 」
教科等 (図画工作科) 単元名 「 うきうきボックス 」
- ⑤ 保護者や地域、関係機関等との連携
地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、「防災ダック」の紹介や、児童が体験する場を設ける。

防災教育の取組

(2) 学年

1 学期の取組

- ① 教科等名 (図画工作科)
- ② 単元名 「 新聞紙とあそぼう 」
- ③ 学習内容
新聞紙のよさや面白さを体全体を駆使した感じ方を通して見つけながら表現することをたのしむ造形遊び。新聞紙を体全体で感じ、破いたり裂いたり丸めたりしながらさまざまな操作を楽しみ、その中から思いついた活動や表し方を自分なりに楽しんでいく。
- ④ 成果 (○) と課題 (●)
○授業日前に豪雨による休校があり、実際に自然災害を想定して授業に臨むことができた。
○身近な材料である新聞紙を使い作業も児童の発達段階に応じた物を選択したことで、防災意識が高まった。
●図工科の学習内容の目的とは異なる活動となった。
- ⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと
・身近な物である新聞紙を使って避難所で身を守るスリッパをさくせいする。

2 学期の取組

- ① 教科等名 (生活科)
- ② 単元名 「 つなげる広がるわたしの生活 」
- ③ 学習内容
・前単元「うごくうごくわたしのおもちゃ」で1年生に向けた「おもちゃランド」の活動と関連付け、本単元では、異学年や地域の人に向けて「新聞紙スリッパ」の作り方を伝えていく活動をする。新聞紙スリッパを作る際にポスターや動画資料を作成、場の設定を工夫するなど児童に考えさせて相手に分かりやすく伝えるためにどう工夫すればよいかを考えさせる。
- ④ 成果 (○) と課題 (●)
- ⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと

北小防災フェスティバル 10/31 (木)

- ① 発表形式 (新聞紙スリッパの作り方をレクチャーする)
- ② 発表内容
町たんけんを通して学習した内容を異学年の児童、地域の方や保護者に向けて発表する。避難所で使える新聞紙スリッパの作り方をグループごとにポスターや動画を使って紹介し実際に作ってみる。
- ③ 軸となる教科等 → 教科等 (生活科) 単元名「つながる広がるわたしの生活」
- ④ 関連させる教科等 → 教科等 (道徳科) 単元名「いま、ぼくにできること」
教科等 (生活科) 単元名「もっとなかよしまちたんけん」
教科等 (国語科) 単元名「はたらく人に話を聞こう」「話そう二年生のわたし」
「町で見つけたことを話そう」
教科等 (図画工作科) 単元名 「新聞紙となかよし」
- ⑤ 保護者や地域、関係機関等との連携
・町探検で学校周辺の危険箇所について指導して頂く。(地域・関係機関との連携)

防災教育の取組

(3) 学年

1 学期の取組

① 教科等名 (社会科)

② 単元名 「呉市の様子」

③ 学習内容

ハザードマップについて知り、もし災害が起きたときにどうすればよいか考える。

④ 成果 (○) と課題 (●)

○ハザードマップを見たその後の行動が大切だと指導することで、「家庭で話し合いたい」と振り返る児童が多かった。

●ハザードマップの警戒区域に入っているから危ないのだという意識を児童の一部が持ってしまうのではないかと不安が残った。

⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと

○体育科「水泳運動」では、水の特性を知り水害の危険性を知ることができた。

○総合的な学習の時間「校区マップを作ろう」では、地域にある建物や地形から、危険と思われる場所を想起することができた。

2 学期の取組

① 教科等名 (総合的な学習の時間)

② 単元名 「防災マップを作ろう」

③ 学習内容

ハザードマップを基にして、自分達が住んでいる地域に特化した防災を行う。

④ 成果 (○) と課題 (●)

⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと

今回は
ここまで

防災教育の取組

(3) 学年

1 学期の取組

① 教科等名 (社会科)

② 単元名 「呉市の様子」

③ 学習内容

ハザードマップについて知り、もし災害が起きたときにどうすればよいか考える。

④ 成果 (○) と課題 (●)

○ハザードマップを見たその後の行動が大切だと指導することで、「家庭で話し合いたい」と振り返る児童が多かった。

●ハザードマップの警戒区域に入っているから危ないのだという意識を児童の一部が持ってしまうのではないかと不安が残った。

⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと

○体育科「水泳運動」では、水の特性を知り水害の危険性を知ることができた。

○総合的な学習の時間「校区マップを作ろう」では、地域にある建物や地形から、危険と思われる場所を想起することができた。

2 学期の取組

① 教科等名 (総合的な学習の時間)

② 単元名 「防災マップを作ろう」

③ 学習内容

ハザードマップを基にして、自分達が住んでいる地域に特化した防災を行う。

④ 成果 (○) と課題 (●)

⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと

今回は
ここまで

防災教育の取組

(4) 学年

1 学期の取組

- ① 教科等名 (総合的な学習の時間)
- ② 単元名 「 町の防災 」
- ③ 学習内容
自分にできることを考え、行動することを通して、自らの生活の在り方や将来の展望をもととする態度を養う
自然災害から自分の命や家族の命を守る。
- ④ 成果 (○) と課題 (●)
○災害について関心を高めることができた。避難したらどんなものが必要になるか考えることにつなげることができた。
●自分にできることを考えたが、深まりをもてなかった。
- ⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと
・理科「電気の働き」では、懐中電灯の仕組みや電池の使い方を学習した。
・社会科「水はどこから」では、水の大切さについて学習した。

2 学期の取組

- ① 教科等名 (総合的な学習の時間)
- ② 単元名 「 町の防災 」
- ③ 学習内容
・防災グッズ・防災リュックの内容を知り、実際に使ってみたり、用途を理解する。
- ④ 成果 (○) と課題 (●)
- ⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと

今回は
ここまで

北小防災フェスティバル 10/31 (木)

- ① 発表形式 (発表・グッズ紹介)
- ② 発表内容 小グループで防災グッズを発表したり、使ってみたり、背負ったりする。
- ③ 軸となる教科等 → 教科等 (総合的な学習の時間) 単元名 「 町の防災 」
- ④ 関連させる教科等 → 教科等 (社会科) 単元名 「 暮らしを守る 」
教科等 (国語科) 単元名 「 広告を読み比べてみよう 」
教科等 (理科) 単元名 「 電気のはたらき 」
- ⑤ 保護者や地域、関係機関等との連携
・防災士さんとの連絡調整と招聘。

防災教育の取組

(5) 学年

1 学期の取組

- ① 教科等名 (国語)
- ② 単元名 「 新聞記事を読み比べよう 」
- ③ 学習内容
呉市の豪雨災害についての記事を読み、記事の見出しを考える。
- ④ 成果 (○) と課題 (●)
○見出しを考えるという目的をもって記事を読むことで呉市で過去に起きた災害について知ることができた。
●もう少し全体交流で、災害についてや記事の内容についてもまとめる時間があればより、認知度が高まった。
- ⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと
総合「おいしい米づくりをしよう」の学習で、米の大切さ、
社会科「わたしたちの生活と食料生産」の学習で食べることの大切さについて考えた。

2 学期の取組

- ① 教科等名 (家庭科, 総合, 保健)
- ② 単元名 「 食べて元気に, 地域の郷土料理や文化を調べよう。おいしい米づくりをしよう・けがの手当 」
- ③ 学習内容
家庭科では, 米の炊き方, 防災食の作り方等を学ぶ。総合では, 北小で育てた米を使って郷土料理八寸を炊き出しに通じたかたちにアレンジしてふるまう。保健では, 自分たちができる応急手当について学び, 災害時の対応とつなげて考えていく。
- ④ 成果 (○) と課題 (●)
- ⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと

今回は
こいもじ

北小防災フェスティバル 10/31 (木)

- ① 発表形式 (炊き出しを行う。)
- ② 発表内容
北小で育てた米と昭和地区の伝統料理「八寸」を, 防災の視点から, ライフラインが停止しても, どんな人でも食べられるようにアレンジ, 工夫したものを紹介する。
- ③ 軸となる教科等 → 教科等 (総合的な学習の時間) 単元名 「地域の郷土料理や文化を調べよう」
- ④ 関連させる教科等 → 教科等 (総合的な学習の時間) 単元名 「おいしい米づくりをしよう」
教科等 (家庭科) 単元名 「食べて元気に」
教科等 (社会科) 単元名 「わたしたちの生活と食料生産」

防災教育の取組

(6) 学年

1 学期の取組

- ① 教科等名 (総合的な学習の時間)
- ② 単元名 「 もし自分が被災したら… 」
- ③ 学習内容
避難所についてのイメージ、どんなものがあり、
どんなものがないか、避難した人が困るのはどんな
ことか考えたり、調べたりして交流した。
- ④ 成果 (○) と課題 (●)
○「もし自分が避難したら」と自分事としてとらえ
させることができました。
●避難所の様子をより具体的にイメージさせるため
に、事前に資料を提示するとよかった。
⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと
・社会科「震災復興の願いを実現させる政治」
→災害が起きたとき、国や県、市はどのような取
り組みをしているのか調べて、まとめた。
・総合的な学習の時間「自分の命を守ろう」
→水の事故が起きた際に自分の命を守る方法を
知り、実践した。

2 学期の取組

- ① 教科等名 (総合的な学習の時間)
- ② 単元名 「 もし自分が被災したら… 」
- ③ 学習内容
防災フェスティバルに向けて被災したときの生活
について調べ、下学年や地域の人楽しく災害時の
生活について知ってもらおう方法を考える。
市の危機管理課の方から災害の様子や避難所での
生活について話を聞いたり、質問したりする。
- ④ 成果 (○) と課題 (●)
○
○
○
○
- ⑤ その他に防災教育と関連させて取り組んだこと
○
○
○
○

北小防災フェスティバル 10/31 (木)

- ① 発表形式 (各ブースでの体験)
- ② 発表内容 災害時のくらしを体験しよう
- ③ 軸となる教科等 → 教科等 (総合) 単元名 「 もし自分が被災したら… 」
- ④ 関連させる教科等 → 教科等 (社会科) 単元名 「 震災復興の願いを実現させる政治 」
教科等 (家庭科) 単元名 「 快適な衣生活を工夫しよう 」
教科等 (総合的な学習の時間) 単元名 「 自分の命を守ろう 」
教科等 (道徳科) 単元名 「 天災は忘れていなくてもやってくる 」
「 うちら『ネコの手』ボランティア 」
- ⑤ 保護者や地域、関係機関等との連携
呉市危機管理課と連携し、被害の様子や避難後の生活を聞く。
避難所で使う防災グッズを貸してもらう